

特集

世界に誇る平戸の伝統

8月11日～18日、ユネスコ無形文化遺産「風流踊」の1つである「平戸のジャンガラ」が、4年ぶりに各地で奉納されました。この特集では、各地で受け継がれる伝統を紹介します。

問 文化交流課文化遺産班(☎22・9143)



カトリック宝亀教会前での奉納(宝亀)

ユネスコ無形文化遺産への登録

令和4年11月30日、国指定重要無形民俗文化財「平戸のジャンガラ」(以下、「ジャンガラ」と表記)を含む「風流踊」が、ユネスコ無形文化遺産(以下、「世界遺産」と表記)に正式に登録されました。

戦国時代から数百年間、平戸各地で守り、受け継がれてきたジャンガラは、神社仏閣に踊りを奉納し、雨乞いや五穀豊穰を祈願します。

各地で伝承されているジャンガラは、城下組(戸石川・川内・山中)では中踊りの1～2人が、下組(宝亀・紐差・根獅子)と大下組(中津良・津吉・野子・大志々伎)では中踊りの2人組が中心になって踊るなど、それぞれの特色が受け継がれています。

8月14日に野子・大志々伎、15日に宝亀・紐差・根獅子・中津良・津吉、16日に川内・山中、18日に平戸の日程で奉納され、早朝から夜遅くまで笛、鉦、太鼓の囃子が響き渡ります。

城下組

— Castle town Group —

戸石川・川内・山中



戸石川、川内、山中からなる城下組のジャンガラは、他地区と比べ軽快なリズムの囃子が特徴です。

山中自安和楽保存会総代の米倉さんに伺いました。

子どもたちの晴れ舞台

世界遺産に登録され、さまざまな場面で披露する機会が増えました。

特に、中学校での講習や、鄭成功まつり前夜祭や地区の敬老会など、子どもたちがジャンガラに触れる機会が増え、とても嬉しく感じます。

今後、無形文化遺産登録式典で出会った他の「風流踊」の皆さんと交流しつつ、力を合わせて継承していきたいと思っています。

山中自安和楽保存会

総代 米倉 秀雄 さん

Interview



亀岡神社での奉納(戸石川)



川内浦地区での奉納(川内)



無形文化遺産登録式典(米倉総代)



妙観寺での奉納(山中)



中野愛児園児童へ披露(山中)



船に乗って登場する演者の皆さん(中津良)

大下組

Southernmost Group

中津良・津吉・野子・大志々伎



カトリック紐差教会前での奉納(紐差)

下組

Southern Group

宝亀・紐差・根獅子



Interview



中津良自安和楽保存会
師匠 吉永 大蔵さん

以前は上中津良町だけで奉納していましたが、今は下中津良町、敷佐町、猪渡谷町、堤町と地域の垣根を超えてみんなで継承しています。

地域の垣根を超えて
中津良では、猪渡谷から堤まで船で渡り各地を練り歩きます。また、他地区よりもさらに派手な花飾りは、観衆の皆さんの目をひと際引いていることでしょう。

大下組のジャンガラは、他地区と比べゆったりとしたリズムの囃子や、市内各地に伝わる須古踊りと共通する「花杖」など、志々伎神社で奉納された原型に近いとされます。中津良自安和楽保存会師匠の吉永さんに伺いました。

Interview



紐差自安和楽保存会
会長 幾世 知也さん

演者も観衆の皆さんも「自ラ安ンジテ和ヲモツテ楽トス」という名前のように、とても楽しんでいる空気に包まれていました。

紐差では、近年の酷暑や担い手不足への対策として、奉納時間を午前7時〜午後6時へ短縮し、男性のみだった中打ちの演者に、小中学生の女の子を起用しました。

自安和楽の名のごとく
紐差自安和楽保存会会長の幾世さんに伺いました。
下組は、根獅子では人津久の浜に船から上陸し、宝亀・紐差ではカトリック教会前で奉納するなど、美しい海や織りなす信仰という平戸を象徴する舞台で舞い踊ります。



志々伎漁協での披露(大志々伎)



池八幡神社での奉納(中津良)



根獅子地区での行列(根獅子)



根獅子小学校での奉納(根獅子)



阿弥陀寺での奉納(野子)



津吉地区での披露(津吉)※コロナ禍前開催分



三輪神社での奉納(紐差)



宝亀浦地区へ向かう行列(宝亀)